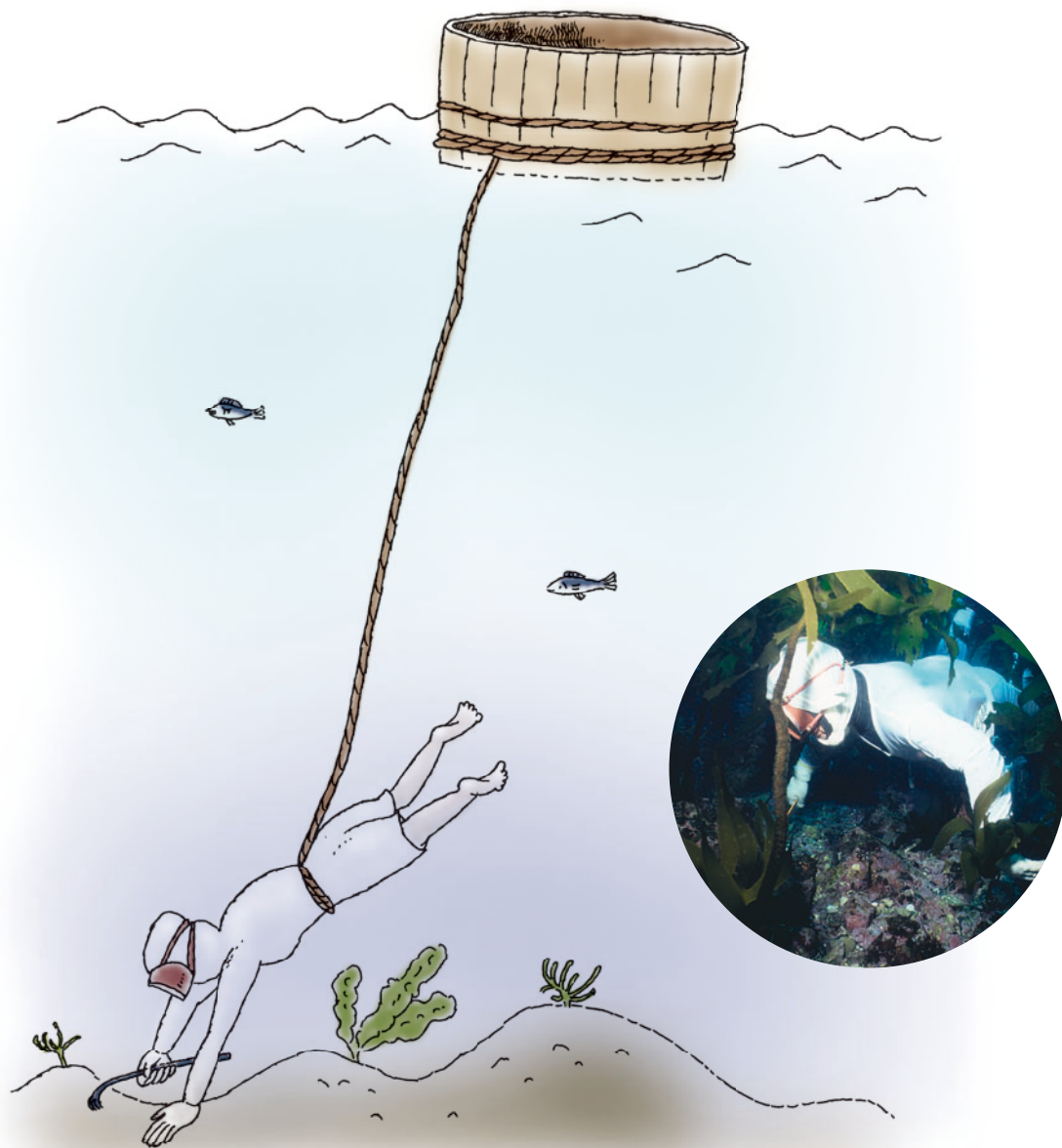


徒人

以前は海女が桶を浮きにして作業したので、オケ海女とも呼ばれました。自力で潜水し浮上するため5～8メートルの比較的浅い磯で獲物を探します。ふつうは陸からそれぞれが泳いで漁場へですが、漁場が遠い地区では船に乗り合って沖へでるところもあります。



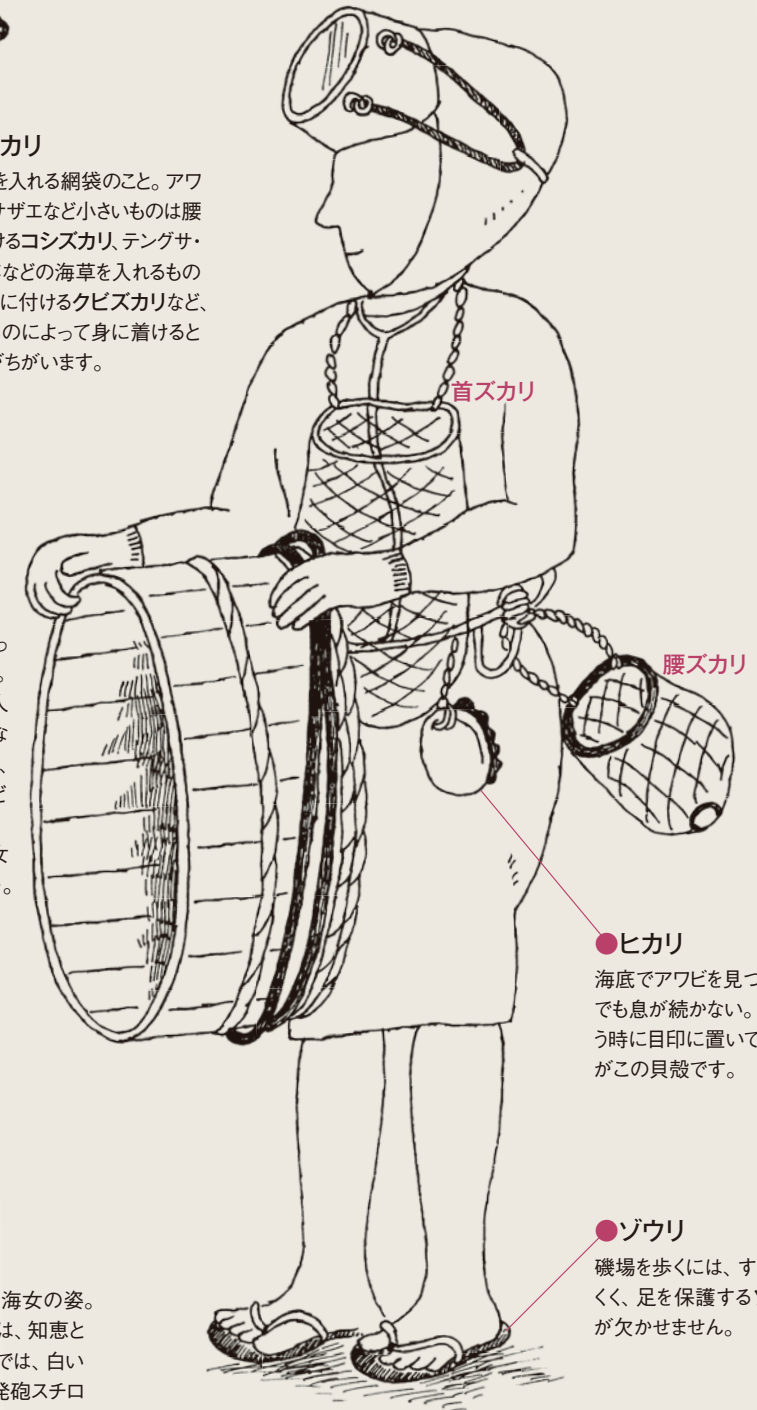
磯樽(タンポ)

●スカリ

獲物を入れる網袋のこと。アワビやサザエなど小さいものは腰につけるコシスカリ、テングサ・アラメなどの海草を入れるものは、首に付けるクビスカリなど、とるものによって身に着けるところがちがいます。

●タル・オケ

とったものを入れたり、つかまって休んだりするのに使います。おもに1人で仕事をする徒人海女の道具です。特に大きな桶(おけ)を半切り(はんぎり)とよび、アラメ潜(かづ)き(アラメとり)などに使います。上図が磯樽(いそだる)、右の海女がもっているのが磯桶(いそおけ)。



●磯メガネ

メガネが使用される以前は、素目(すめ)といわれる裸眼で潜っていたので、獲物の発見は容易でなく、潮で目を傷めることがよくありました。

首ズカリ

腰ズカリ

●ヒカリ

海底でアワビを見つけた。でも息が続かない。そういう時に目印に置いてくるのがこの貝殻です。

●ゾウリ

磯場を歩くには、すべりにくく、足を保護するゾウリが欠かせません。

■海女のすがた

白い磯着に身を包んだ伝統的な海女の姿。手に持つ道具や身に着けるものは、知恵と工夫からうまれたものです。現在では、白い磯着がウエットスーツに、磯桶が発砲スチロールのタンポになど、変わってきています。